

河内長野市埋蔵文化財調査報告書IV

1990年3月

河内長野市教育委員会

序 文

大阪府の南東部に位置する河内長野市は、旧高野街道が市の中央を縦走し、昔は宿場町として文化の交流地点であった。

この様な都市河内長野市は、古い歴史と自然に恵まれた静かな町であったが、近年の住宅開発の波は本市にも波及し、高層住宅をはじめとする住宅の建設ラッシュの様相を呈して新しくさまがわりをしてきている。

地域開発がもたらす文化財や自然に対する影響も大きなものがある。開発にともなって埋蔵文化財を破壊する危険はさけてとおることのできない問題といえる。

この意味で地域にとっては有意義な開発ではあるが埋蔵文化財の保護を考えたうえで行われなければならない。それは、この土地に移り住み人たちのみならず、本市に住んできた人々にとっても埋蔵文化財がとりもなおさず、その他歴史の証人であるからである。

本書は年々発掘調査の面積も増加しているなかで、慎重にできるだけ丁寧を願いながら発掘調査をしてきた。その成果を収録したものである。

これらの調査を実施し得たのは、ひとえに施主の方々の埋蔵文化財保護に関する深い理解によるものである。末尾ながら謝意を表すものである。

平成2年

河内長野市教育委員会
教育長 中 尾 謙 二

例　　言

1. 本書は平成元年度に河内長野市教育委員会が国庫補助事業（国庫500,000円・府250,000円・市250,000円）として計画、実施した塙谷遺跡ほか市内遺跡の発掘調査報告書である。
2. 事業は、本市教育委員会社会教育課文化係尾谷雅彦を担当者として、平成元年4月1日から着手し平成2年3月31日をもって終了した。
3. 本書の執筆は遺構を尾谷雅彦、遺物は高田加容子の協力を得た。
4. 編集は尾谷が担当し、本書の文責は尾谷が負うものである。
5. 調査については下記の方々の協力を得た。
明地奈緒美・阪本桂子・中村清美・中野雅美
6. 本調査にあたっては、写真・実測図などの記録を作成するとともに、カラースライド等を作成した。広く利用されることを希望する。

目 次

例 言

1.はじめに.....	1
2.調査の状況.....	1
3.調査の結果.....	5
4.まとめ.....	16

挿図目次

第1図 河内長野市遺跡分布図.....	2
第2図 高向遺跡調査地位置図.....	7
第3図 遺構全体平面図実測図.....	7
第4図 断面図.....	8
第5図 掘立柱建物1遺構実測図.....	8
第6図 掘立柱建物1出土遺物実測図.....	8
第7図 掘立柱建物2遺構実測図.....	9
第8図 掘立柱建物2出土遺物実測図.....	9
第9図 溝7遺物実測図構実測図.....	9
第10図 溝8遺物実測図.....	9
第11図 土坑1遺構実測図.....	10
第12図 土坑2遺構実測図.....	10
第13図 落ち込み1出土遺物実測図.....	11
第14図 P1遺構実測図.....	11
第15図 落ち込み2・P1~P8出土遺物実測図.....	12
第16図 包含層出土遺物実測図.....	14

表 目 次

第1表	河内長野市遺跡地名表	3
第2表	民間開発に伴う発掘調査一覧	4
第3表	発掘届一覧	4

図版目次

図版I	遺跡全景（航空写真）
図版II	遺構　調査区近景（南から）、調査区全景（東から）
図版III	遺構　調査区全景（西から）、溝6・7（西から）
図版IV	遺構　土坑1（南から）、土坑2（東から）
図版V	遺構　P1土器出土状況、P3　土器出土状況
図版VI	遺物　掘立柱建物1・2、溝7・8、落ち込み1
図版VII	遺物　溝7、P1～8、落ち込み2、包含層
図版VIII	遺物　包含層

1. はじめに

大阪府の東南端に位置する河内長野市は、旧河内国錦部郡に属し、紀伊・大和・和泉の三国に接していた。この為、和泉山脈、金剛山地から派生する谷筋は古代から交通の要所となったところである。埋蔵文化財だけに限らずその他の文化財も、この谷筋及び段丘上に数多く分布している。（図1）

現代の河内長野市は大阪市の通勤圏に位置し、住宅都市として年々人口が増加し、人口増加率は大阪府下最高である。この為、住宅開発とあわせて交通アクセスの整備、住宅環境の整備など、公共投資も盛んである。この結果、地下に眠る埋蔵文化財への影響は増加するばかりである。

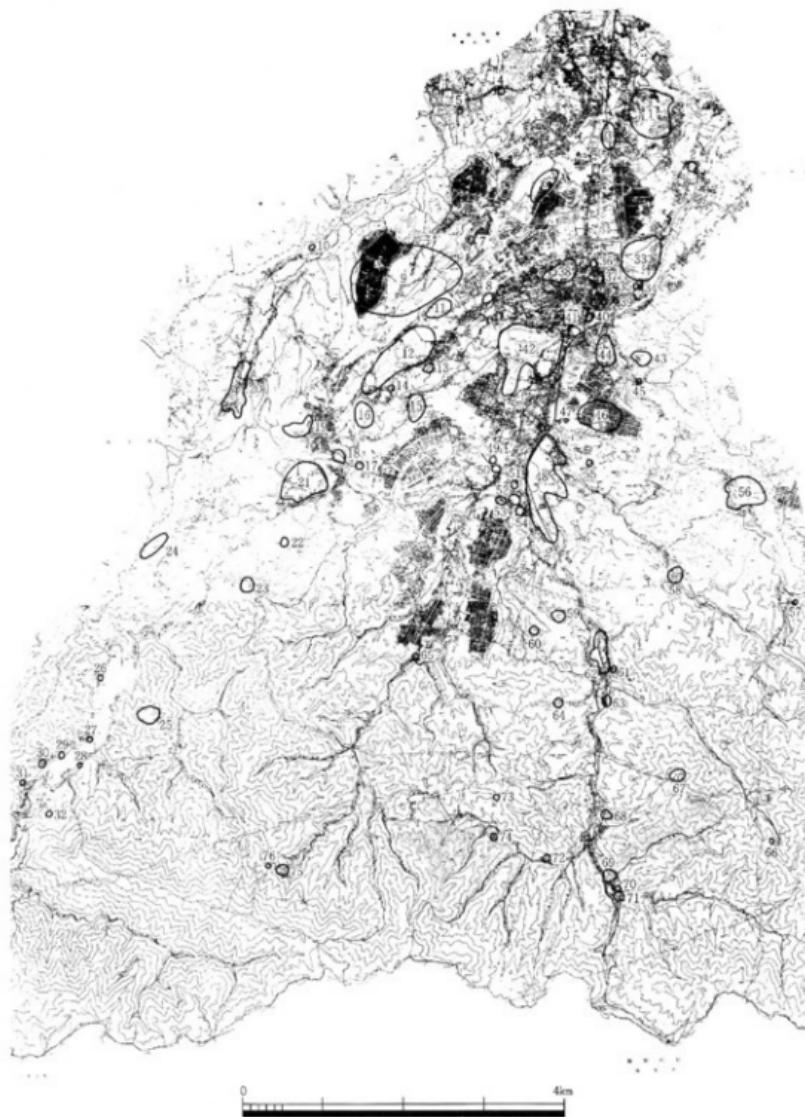
このような状況下のなかで本市教育委員会は国及び府からの補助金を受けて発掘調査を実施してゆくことになった。

平成元年度の文化財保護法57条の2及び3に基づく発掘届・発掘通知の件数は1月末現在で33件受け付けている。この中で発掘届は27件、発掘通知が6件である。さらに国及び府指定の史跡の現状変更も2件受け付けられている。

また、500m²以上の開発に関しては試掘調査の協力を依頼し、22件の試掘調査の依頼を受けている。

2. 調査の状況

今年度の発掘届にみられる原因者の状況は、開発業者の一戸建て住宅分譲及び共同住宅の建設が主であるが、最近、個人による小規模マンション及び貸し倉庫の建築が目立ってきている。これは、仲介業者のあっ旋によるものが多く、試掘調査や発掘調査での調査費の負担について、問題が生じる状況も生まれている。個人住宅に関しては、立替に伴うものが多くを占めている。これらの中で、予備調査の段階で遺構の確認されない場合や、逆に予想に反して遺跡の範囲が拡大する例も多くある。このため周知の遺跡の範囲の再検討が必要になってきている遺跡も多い。



第1図 河内長野市遺跡分布図

第1表 河内長野市遺跡地名表

番号	遺跡名	時代	番号	遺跡名	時代
1	塩谷遺跡	弥生時代～中世	40	長野神社遺跡	中世
2	千代田神社遺跡	中世	41	大日寺遺跡	
3	菱子尻遺跡	弥生時代～中世	42	鳥帽子形古墳	古墳時代
4	小山田1号古墳	奈良時代		鳥帽子形城跡	繩文時代～中世
5	小山田2号古墳	奈良時代		鳥帽子形八幡宮	中世
6	寺が池遺跡	旧石器時代～繩文時代	43	河合寺	中世
7	住吉元宮遺跡	中世	44	河合寺城跡	中世
8	上原北遺跡			末広窯跡	中世
9	長池窯跡群	中世	45	福田家	近世
10	青垣神社遺跡	中世	46	大師山遺跡	古墳時代～弥生時代中期
11	塚穴古墳・上原遺跡	古墳時代後期～中世	47	大師山南古墳	古墳時代
12	高向遺跡・高向前遺跡	弥生時代～中世	48	三日市遺跡・石仏遺跡	旧石器時代～近世
13	懸持寺跡	中世	49	小塙遺跡	古墳時代後期～奈良時代
14	高向神社遺跡	中世	50	加塙遺跡	古墳時代後期
15	宮山古墳	古墳時代後期	51	尾崎遺跡北	"
16	高木遺跡	旧石器時代～繩文時代	52	尾崎遺跡南	平安時代～中世
17	峰山城跡	中世	53	加賀田神社遺跡	中世
18	日の谷城跡	中世	54	ジョウノマエ遺跡	"
19	仁王山城跡	中世	55	栗山遺跡	"
20	金剛寺	平安時代～	56	觀心寺	平安時代～
21	日野観音寺遺跡	中世	57	川上神社遺跡	中世
22	細荷山城跡	中世	58	延命寺	
23	旗藏城跡	中世	59	石仏城跡	中世
24	国見城跡	中世	60	左近城跡	中世
25	椎現城跡	中世	61	薬師院寺	
26	清水阿弥陀堂跡	近世	62	清水遺跡	中世
27	滝畠堀墓	近世	63	千早口駅南遺跡	中世
28	中村阿弥陀堂跡	近世	64	地藏寺	近世
29	堂村地蔵堂跡	近世	65	大江家	中世
30	天神社遺跡	中世	66	葛城第18経塚	中世
31	西の村阿弥陀堂跡	近世	67	旗尾城跡	中世
32	東の村観音堂跡	近世	68	大見駅北方遺跡	中世
33	向野遺跡	繩文時代～中世	69	蟹井瀬北遺跡	中世
34	双子塚古墳伝承地	古墳時代	70	蟹井瀬神社遺跡	中世
35	五の木古墳跡	古墳時代後期	71	蟹井瀬南遺跡	中世
36	古野街遺跡	中世	72	流谷八幡神社遺跡	中世
37	膳所藩陣屋跡	近世	73	葛城第17経塚	中世
38	西代神社遺跡		74	薬師堂跡	中世
39	本多藩陣屋跡	飛鳥・藤原時代～近世	75	岩湧寺	中世
	法師塚古墳伝承地	古墳時代	76	葛城第15経塚	中世～

第2表 民間開発に伴う発掘調査一覧

遺跡名	調査期間	申請者	申請面積 m ²	用途	区分	備考
上原北	元年.4/28	宏和産業	2596	分譲住宅	原因者	遺構・遺物なし
塙谷	元年.5/10	光洋建設	698	共同住宅	原因者	遺構・遺物なし
向野	元年.5/11	上村教男	337	個人住宅	国庫	遺構・遺物なし
小塙	元年.7/5~7/26	東急不動産	5303	共同住宅	原因者	別記載
古野町	元年.8/7	サヤマプライベート	698	職員住宅	原因者	遺構・遺物なし
塙谷	元年.8/7	藤原収二	397	個人住宅	国庫	若干の土師器細片
鳥帽子形城	元年.8/23~9/9	村壽幸夫	997	共同住宅	原因者	別記載
膳所藩陣屋	元年.9/25	芝野博文	362	個人	国庫	遺構・遺物なし
上原北	元年.9/28	互助会サービス	592	会館	原因者	遺構・遺物なし
長野神社	元年.10/6	村壽明美	648	貸店舗	原因者	遺構・遺物なし
鳥帽子形城	元年.10/18	高田益明	139	個人住宅	国庫	遺構・遺物なし
鳥帽子形城	元年.10/18	井削弘	121	個人住宅	国庫	遺構・遺物なし
尾崎	元年.10/20	阪谷広海	123	貸倉庫	原因者	遺構・遺物なし
尾崎	元年.10/23	芝上雄次郎	978	貸倉庫	原因者	遺構・遺物なし
長池窯跡	元年.11/13	西野八重子	256	個人住宅	原因者	遺構・遺物なし
鳥帽子形城	元年.11/16	オカムラ通商	1004	分譲住宅	原因者	遺構・遺物なし
日野觀音寺	元年.11/17	東美好	288	個人住宅	国庫	礎石状の石と瓦器
上原北	2年.1/9	森木恵三	193	個人住宅	国庫	遺構・遺物なし
高向	2年.1/8~1/18	大宅茂	344	個人住宅	国庫	本書掲載

第3表 発掘届出一覧

種別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	合計
57条の2	2	3		4	4	2	4	2	2	3	27
57条の3			3	1					1	1	6
試掘調査	4	3	1	2		3	2	3	1	3	22

3. 調査の結果

A. 上原北遺跡

昭和60年に発見された遺跡であるが、本格的な調査は実施していない。原因者とともに調査（UHK89-1）も、個人住宅の調査（UHK89-1）も遺構遺物は検出されなかった。

B. 塩谷遺跡

この遺跡範囲内もミニ開発が多く、それに伴う予備調査も増加しているが、遺構の確認までは至っていない。

原因者の調査（SIO89-1）や個人住宅の調査（SIO89-2）でも遺構は確認されなかったが、若干の土師器の細片とサヌカイト片が出土した。

C. 向野遺跡

向野遺跡は昭和62年に発見された遺跡である。昭和63年から平成元年にかけて、向野住宅街区整備事業に伴う調査がなされ、縄文時代・平安時代・中世の各遺構・遺物が検出され、複合遺跡であることが判明した。

個人住宅に関しては石川河畔で、予備調査を実施したが、遺構・遺物は検出されなかった。このため、遺跡の範囲は、河岸段丘上までと予想される。

D. 小塙遺跡

当遺跡は昭和63年に発見された遺跡で、広範囲に遺物が散布している。既往の調査では7世紀代の遺構遺物が検出されている。今年度の原因者の調査（OSO89-1）では6世紀代の堅穴住居が検出された。

E. 烏帽子形城

中世から近世初頭にかけての烏帽子山頂上に位置する烏帽子形城を中心に、北側の石川右岸および天見川左岸の段丘上に拡がる遺跡である。

民間開発のマンション建設に伴う調査（EBS89-1）で中世・古墳時代後

期の遺構遺構、さらに縄文時代後期の土器も出土し、烏帽子形城周辺は複合遺跡であることが判明した。

個人住宅（E B S 89-2・3）に関しては、城の南側麓の旧高野街道沿いの住宅の立替があり立会調査を実施した。しかし、盛上が大量であり遺構遺物は検出しなかった。

F. 膳所藩陣屋跡

近江膳所藩の河州出張所が置かれていた場所で、既往の調査では近世陶磁器、井戸などが検出されている。今年度の個人住宅の調査（Z Z H 89-1）では遺構遺物は検出されなかった。

G. 長野神社遺跡

神社が位置する下層から、鬼瓦や軒丸瓦・軒平瓦・土師質土器などが出土し寺院跡が予想される遺跡である。この寺院の範囲は確定されていないが、現神社敷地内に収まるようである。今年度の原因者の調査（N N G 89-1）では遺構遺物は検出されなかった。

H. 尾崎遺跡

昭和62年に発見された遺跡で、既往の調査では古墳時代後期・平安時代・中世の遺構遺物が検出されている。今年度の原因者の調査（O S K 89-1・2）では遺構遺物は検出されなかった。

I. 長池窯跡群

平安時代から近世に到る炭焼き窯の分布する生産遺跡である。今年度の個人住宅の調査（N I K 89-1）では遺構遺物は検出されなかった。

J. 日野観音寺遺跡

中世に栄えた寺院跡で、中世土器が広範囲に散布している。今回の個人住宅の調査（H K T 89-1）では遺物包含層と礎石状の自然石を確認できた。

K. 高向遺跡

石川の左岸に広がる河岸段丘上に位置する遺跡である。段丘上を縦断する国道171号線の調査では多量の縄文時代の石器、弥生時代中期、古墳時代中期、中世の遺跡が検出された。これらの遺構は、段丘中央部より南東の丘陵縁辺部に集中するようである。また、石川よりの本年度調査の高向公民館防火水槽部分（TKO89-1）の

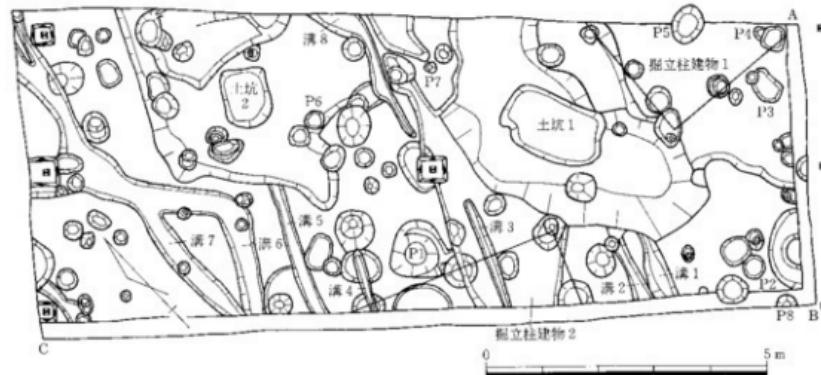
調査や個人住宅（TKO89-2）の調査では奈良時代の遺構遺物が検出され、昭和62年度の水路改修工事においては中世の遺構遺物が検出された。

のことから、高向遺跡の遺構の分布はこの段丘上の縁辺部に集中しているようである。

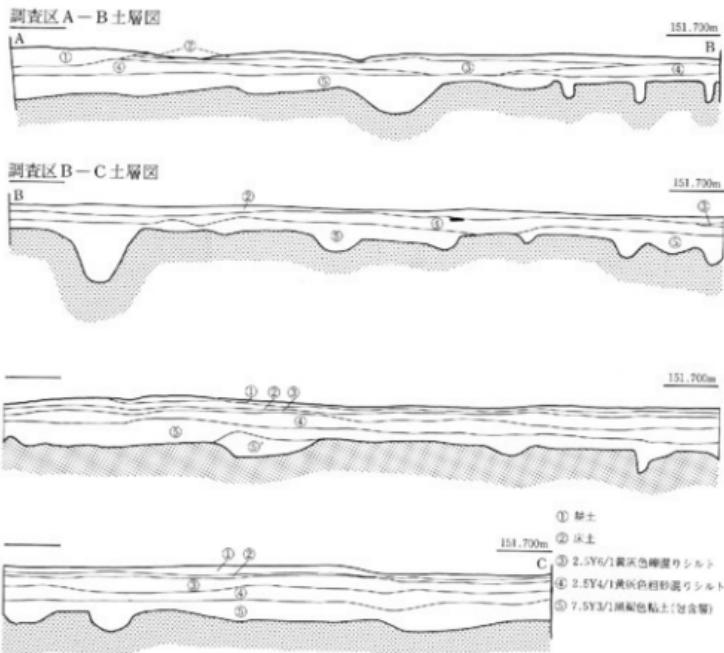
TKO89-2

個人住宅の建設に先立ち、建設予定地のうち約80mについて実施した。位置的には石川の河岸段丘の縁辺に位置し、標高151mを測る。

遺構



第3図 遺構全体平面図実測図

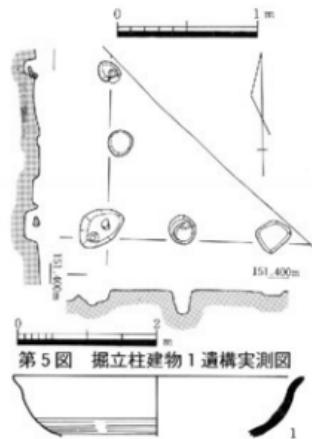


第4図 断面図

遺構は、現地表下-0.4mから検出した。層序は耕土・床土・黄灰色礫混じりシルト・黄灰色粗砂混じりシルト・黒褐色粘土の包含層の層準であった。

遺構は柱穴状のピットが多数検出されたが、掘立柱建物に復元することができたのは少なく、建物の一部しかできなかった。また、溝は7条、土坑は2基、落ち込み1箇所検出した。

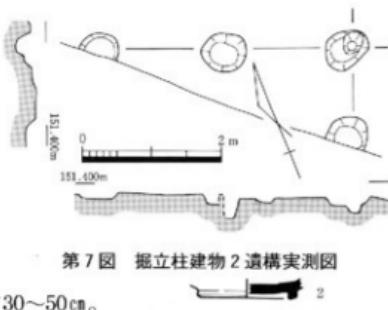
〔掘立柱建物1〕—調査区の東端から検出した東西2間(2.5m)以上×南北2間(2.3m)



以上の掘立柱建物で、北側の調査区外に広がるようである。柱間は東西1.2m、南北1.1m、主軸方向N-9°-E。柱穴径約50cm、深さ30~50cm。

遺物は柱穴から須恵器坏口縁部(1)が出土した。

〔掘立柱建物2〕—調査区の南端から検出した東西2間(3.4m)以上×南北1間(1.4m)以上の掘立柱建物で南側の調査区外に広がる。柱間は東西1.7m、南北1.4m、主軸方

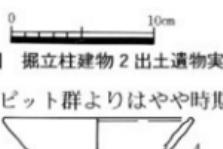


第7図 掘立柱建物2遺構実測図

向N-21°-E。柱穴径約50cm、深さ30~50cm。

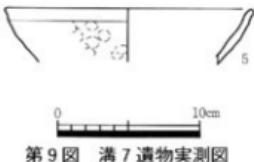
遺物は柱穴から須恵器坏底部(2)・土師器皿口縁部(3)が出土した。

〔溝1~溝5〕—平行する溝で、北から東に約20°程度振る。幅0.2~0.4m、深さ0.1m程度の溝である。北側半分はほとんど確認できなかったが、ピット群よりはやや時期の下がるものである。



遺物は土師器・須恵器片が出土した。

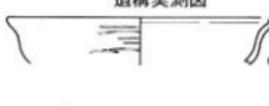
〔溝6〕—溝7と重複するが前後の関係は不明である。幅0.5m、深さ0.15m、調査区南側から2m北へ伸びた後、西に振り溝7と重複し、調査区外に走る。



第9図 溝7遺物実測図
遺構実測図

実測可能な遺物は出土しなかった。

〔溝7〕—南北に調査区を斜めに横断する溝で、溝6と重複する。幅0.4m、深さ0.15m。



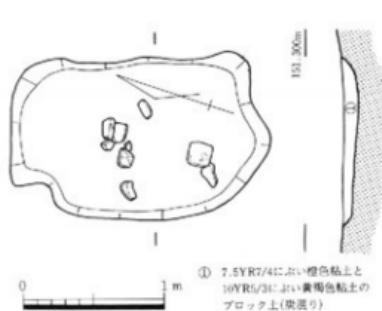
第10図 溝8遺物実測図

遺物は土師器坏口縁部(4・5)が出土した。

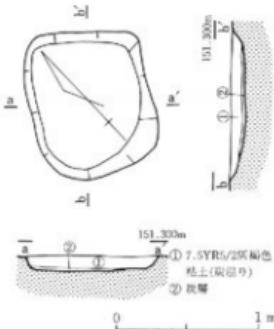
〔溝8〕—溝3と同じ溝と思われるが、途中が中断されているため別に記載する。最大幅0.5m、深さ0.15m。溝の西側の肩部は不整形な形態を示す。

遺物は土師器坏口縁部(6)が出土した。

〔土坑1〕—落ち込み1の底部で検出した、平面形がやや変形した隅丸の長方



第11図 土坑1遺構実測図



第12図 土坑2遺構実測図

形の土坑である。長軸 遺物は土坑内に $20 \times 15 \times 10\text{cm}$ 程度の自然石が5個置かれていた。

〔土坑2〕－調査区の西側で検出された。平面形が隅丸の長方形の土坑である。長軸1.1m、短軸0.9m、深さ0.1m、主軸方向N-36°-E。土坑の埋土の底部には炭層が狹在し、埋土中にも炭化物が多量に混在していた。

実測可能な遺物は出土しなかった。

〔落ち込み1〕－調査区の東側1/3程度を占める不整形な落ち込みである。最深部は0.7mを測る。底部の土坑2付近からは馬歯の一部が出土した。

遺物は土師器壺(10)・土師器皿(11)・土師器甕(12~15)・製塙土器(7~9)、須恵器壺蓋(16~18)・須恵器壺身(19・20)・須恵器鉢(21・22)が出土した。

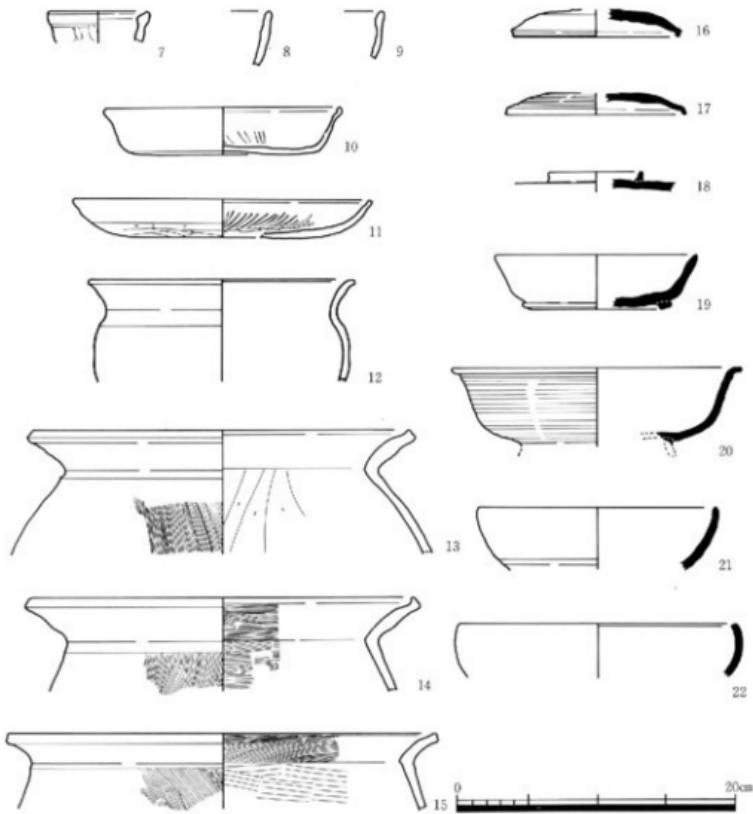
〔落ち込み2〕－調査区の西北側に位置する。平面形は長方形を呈すると思われるが、調査区外に拡がるため全容は不明である。検出長軸長2.5m、短軸長1.6m、深さ0.5mを測る。

遺物は須恵器壺身底部(33)が出土した。

〔P1〕－調査区の南側中央で検出され、平面形はやや不整の円形を呈する。径1m、深さ0.5mを測る。

遺物は土師器皿(26)、須恵器壺蓋(28・29)・須恵器壺身(34)が出土した。

〔P2〕－調査区の南東端で検出され、平面形は円形を呈する。径0.4m、深



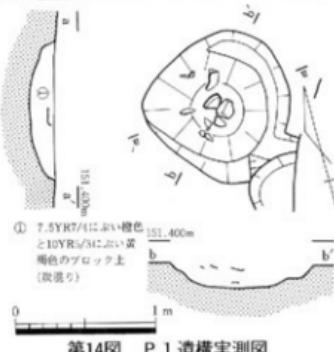
第13図 落ち込み1出土遺物実測図

さ0.5mを測る。

遺物は須恵器坏身口縁部(31)が出土した。

〔P 3〕—掘立柱建物1の南側で検出され、平面形は梢円形を呈する。長径0.7m、短径0.45m、深さ0.2mを測る。

遺物は須恵器長颈壺底部(36)が出土した。



第14図 P 1 造構実測図

〔P 4〕一掘立柱建物 1 を構成する柱穴によって切られるピットで、平面形は円形を呈する。径0.2m、深さ0.3mを測る。

遺物は須恵器坏身口縁部（32）が出土した。

〔P 5〕一掘立柱建物 1 を構成する柱穴の可能性もあるが、埋土内に多量の炭化物がふくまれており、他の柱穴とは異なる。平面形は梢円形を呈し、長径0.7m、短径0.6m、深さ0.3mを測る。

遺物は須恵器坏蓋（30）、土師皿（25）が出土し、他に馬歯の一部も出土している。

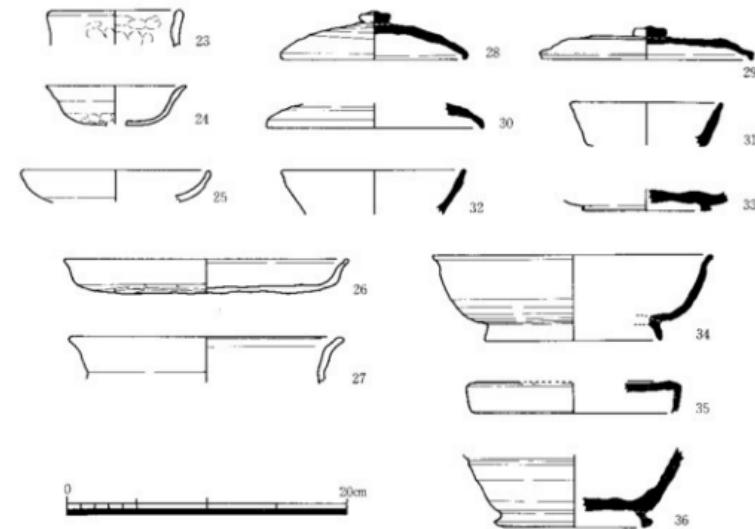
〔P 6〕一上坑 2 の東側に位置する。平面形はやや不整な円形を呈する。径0.45m、深さ0.3mを測る。

遺物は土師器坏（24）・土師器甕（27）が出土した。

〔P 7〕一落ち込み 1 の東側に位置する。平面形はやや不整な円形を呈する小型のピットである。径0.2m、深さ0.1mを測る。

遺物は須恵器短頸壺蓋（35）が出土した。

〔P 8〕一調査区の南東端から一部検出された。平面形は円形を呈する。径



第15図 落込み 2・P 1～P 8 出土遺物実測図

0.4m、深さ0.5mを測る。

遺物は製塙土器（23）が出土した。

遺物

遺物は全体でコンテナ約3箱分が出上しており、その内訳は須恵器が全体の50%、土師器が45%、その他の5%が中近世の土器や陶磁器、瓦片である。

〔土師器〕土師器は、壺、皿、高壺、甕が主体で、他に釜や瓶の小片が、少量出土している。

壺

形態により次のようなタイプに分けられる。底部から内弯気味に立ち上がり口縁部で外反し、端部は内側へ巻き込み丸くおさめるもの（壺A）と、体部から口縁部が内弯気味に上外方へ広がり端部は巻き込まないもの（壺B）が主体で、実測不可能であったが高台を有するタイプのものもある。

壺A（3・4・6・10・39・40・41）は口径11cm～20cm、器高2.7cm～3.5cm。内側は1段の放射線暗文と見込みに螺旋暗文を巡らす。外面は口縁部をヨコナデまたはヘラ磨き、底部はヘラ状工具でナデ付けたように調整されており胎土は細密なものが多い。

壺B（5・38）は口径13cm～17cmで壺Aよりも深く、内面と外面口縁部をヨコナデ、外面体部から底部に顕著な指圧痕を残す。やや肉厚で、胎土も少し粗く濃い橙色を呈する。

皿

皿は口径20cm前後の大型のもの（皿A）と13cmの小型のもの（皿B）に分けられる。

皿A（11・26）は壺Aを平らにしたような形態で、内面に放射線暗文を1段と螺旋暗文を巡らし、外面口縁部はヨコナデ、底部は壺Aと同じである。

皿B（25・37）は口縁端部を巻き込まず内面に暗文はない。胎土はいずれのタイプも密である。

高壺

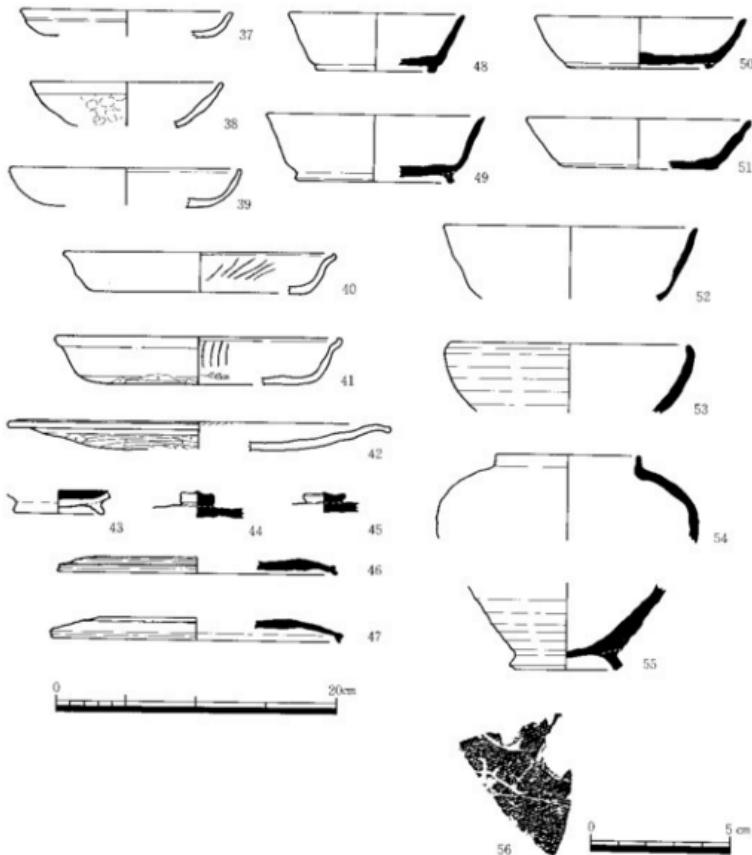
径27.3cmの壺部が出土している（42）。深さ1.2cmと平らで、内側には放射線暗文が見られる。外面底部は丁寧なヘラ削り調整がなされている。小片で実測

不可能であったが面取りされた脚部が出土しておりこれを伴うと思われる。

甕

形態により次のタイプに分けられる。口径20cm以内が、口縁部は外弯し、体部は丸みを持つもの（甕A）、口径25cm以上で口縁部がくの字型に曲折し、外上方へ大きく開くもの（甕B）の2タイプである。

甕A（12、27）は口縁部をヨコナデ。体部内面は不定方向のナデ、外面は未調整で火を受けた痕がある。



第16図 包含層出土遺物実測図

甕B（13～15）は肉厚で、外面体部はいずれも刷毛目、口縁部はヨコナデ。内面は口縁部体部共に刷毛目のものと、口縁部はヨコナデで体部はヘラ削りのものがある。

その他の器種

製塙土器が全体で55片出土している。いずれも小片で、全体の形態は不明であるが比較的厚味を持ち口縁端部を膨らませたもの（7、23）と、薄手で口縁端部を自然におさめたもの（8、9）がある。いずれも胎土は粗いが、厚手のものは細かい土の中に粗い砂粒を混ぜたような胎土で、薄手のものは均一である。

〔須恵器〕蓋坏がもっとも多く、鉢、壺、甕の各器種が出土している。甕は体部の小片ばかりで、実測は不可能であった。

蓋坏

坏身は直線的な口縁部を有し、小さなハの字型の高台を伴うもの（坏A）と同様の口縁部で高台を持たないもの（坏B）、端部の丸い大きなハの字型の高台を持ち、口縁部は内湾しながら立ち上がり端部で外反して開くもの（坏C）がある。

坏蓋は丸みを持った天井部に扁平な擬宝珠つまみを有し、端部を自然におさめるもの（蓋A）と、平らな天井部に扁平な擬宝珠つまみを有し、端部が小さく外反するもの（蓋B）、平らな天井部に輪状のつまみを有するもの（蓋C）がある。

坏Aは高台の付される位置に若干の相違が認められ陶邑編年によれば底部端に近い（48、50）の方が1段階時期の下がるものである。また蓋は天井部に丸みのあるA（28、30）のほうが古い。しかしながら蓋坏のセット関係を明確にできる遺構はなく、落ち込み1より出土している蓋B（16、17）に坏A（19）が、蓋C（18）に坏C（20）が伴うと考えられる。

鉢

いずれも鉄鉢型のもので、外面の口縁部近くから底部にかけて丁寧に回転ヘラ削りされている（21、22、53）。

壺

短頸壺の口縁部（54）と、ハの字型に広がる高台を有する長頸壺の底部（36、55）が出土している。また平らな天井部から口縁が垂直に下がる（35）の蓋は短頸壺に伴うものと思われる。（56）は壺体部の破片であるが、「…□ 水…」の文字が線刻されている。

〔黒色土器〕包含層よりA類の椀底部（43）が出土している。高台高0.8cmハの字型に開く高台である。

まとめ

以上の調査の結果から、今回調査地区の遺構の時期は遺物から奈良時代の平城宮IIないしIIIに相当すると考えられる。この調査地から北東200mのTKO89-1の調査でも同時期の遺構が検出されており、この時期の遺構の広がりを知ることができる。高向遺跡における奈良時代の遺構はこの台地の石川よりの縁辺部に広がるようである。

4. まとめ

今年度の調査において遺構遺物を確実に把握できたのは高向遺跡だけであった。しかし、日野観音寺については下層に寺院の遺構が残されていることを把握することができた。また、塩谷遺跡については遺跡の範囲について再考しなければならないことも判明してきた。この結果を元に次年度においても引き続き、当該地域の遺跡の把握と保存に努めたい。

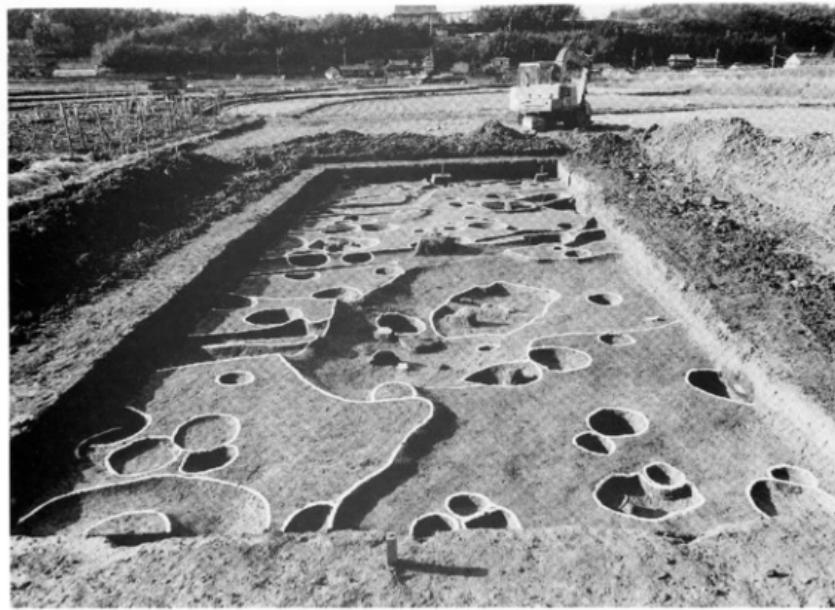
図版



高向遠路全景



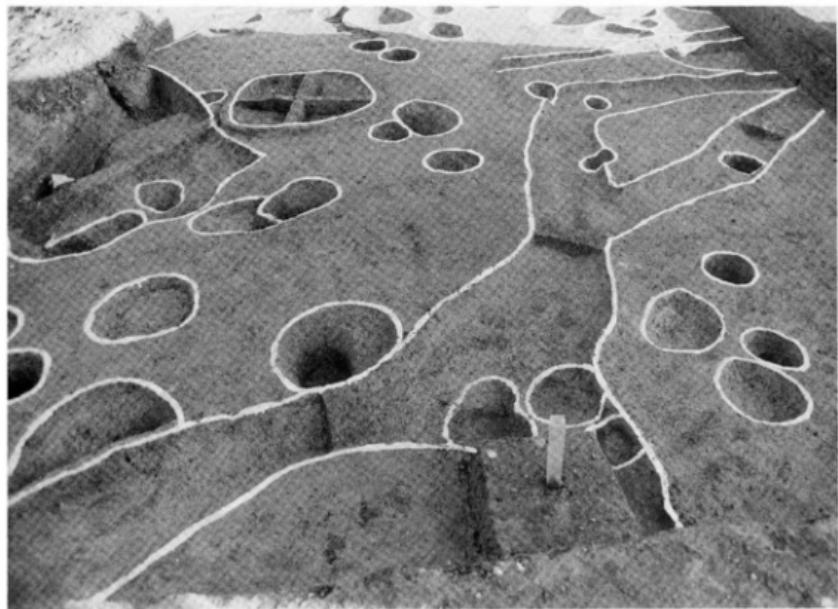
調査区近景（南から）



全景（東から）



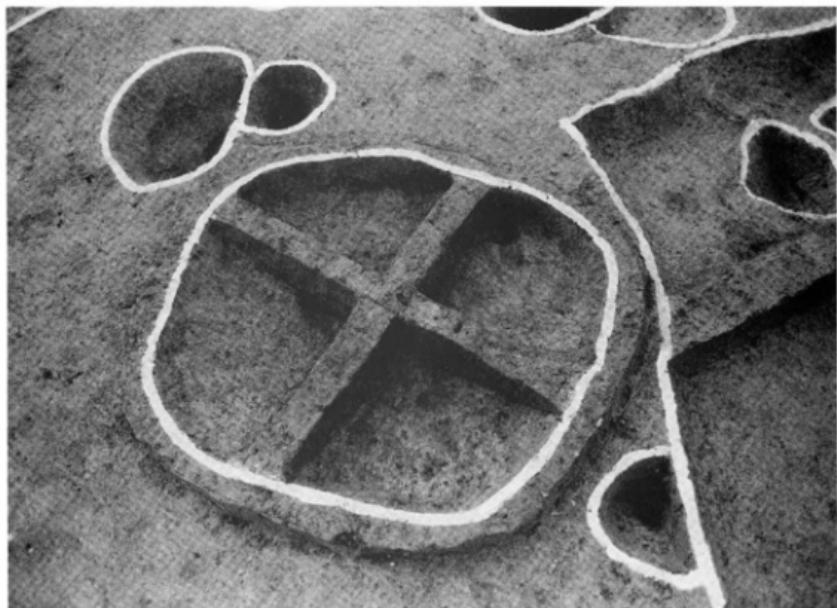
全景（西から）



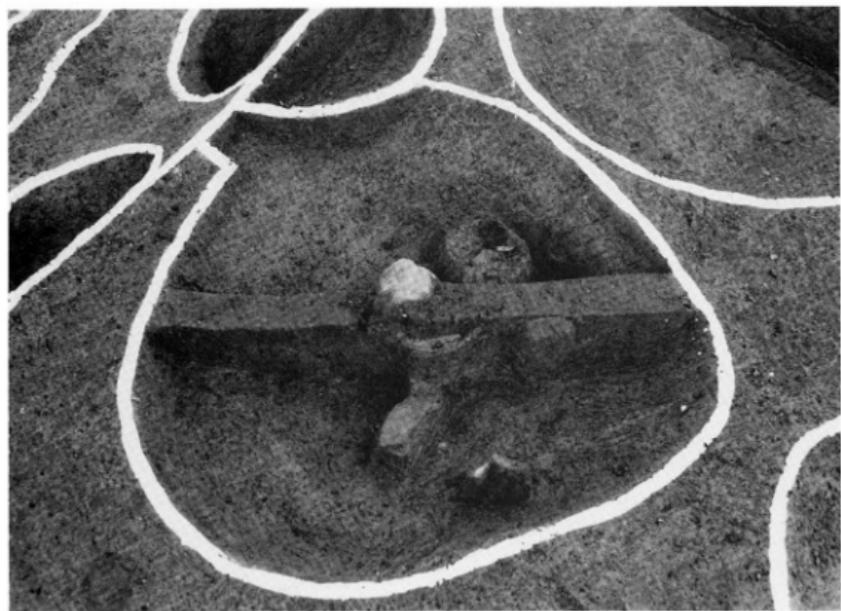
溝6・7（西から）



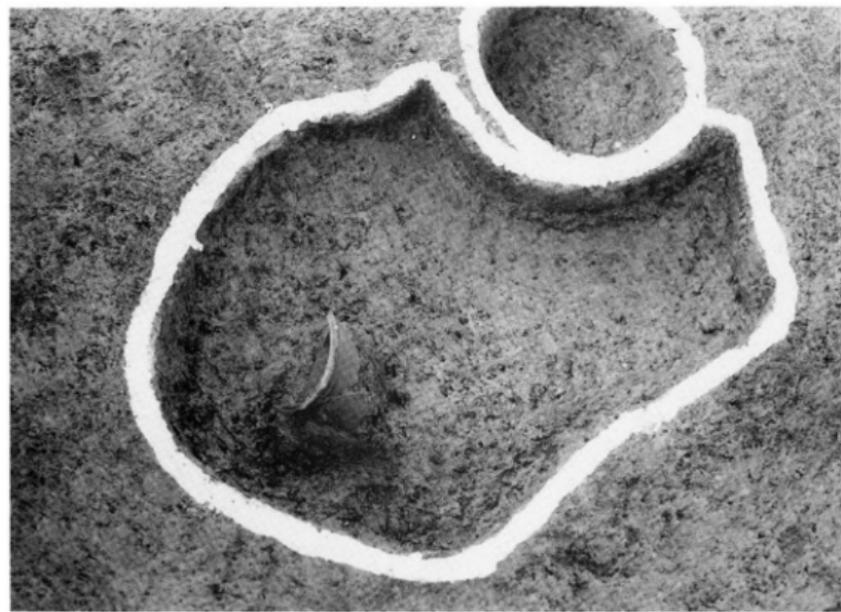
土坑1（南から）



土坑2（東から）



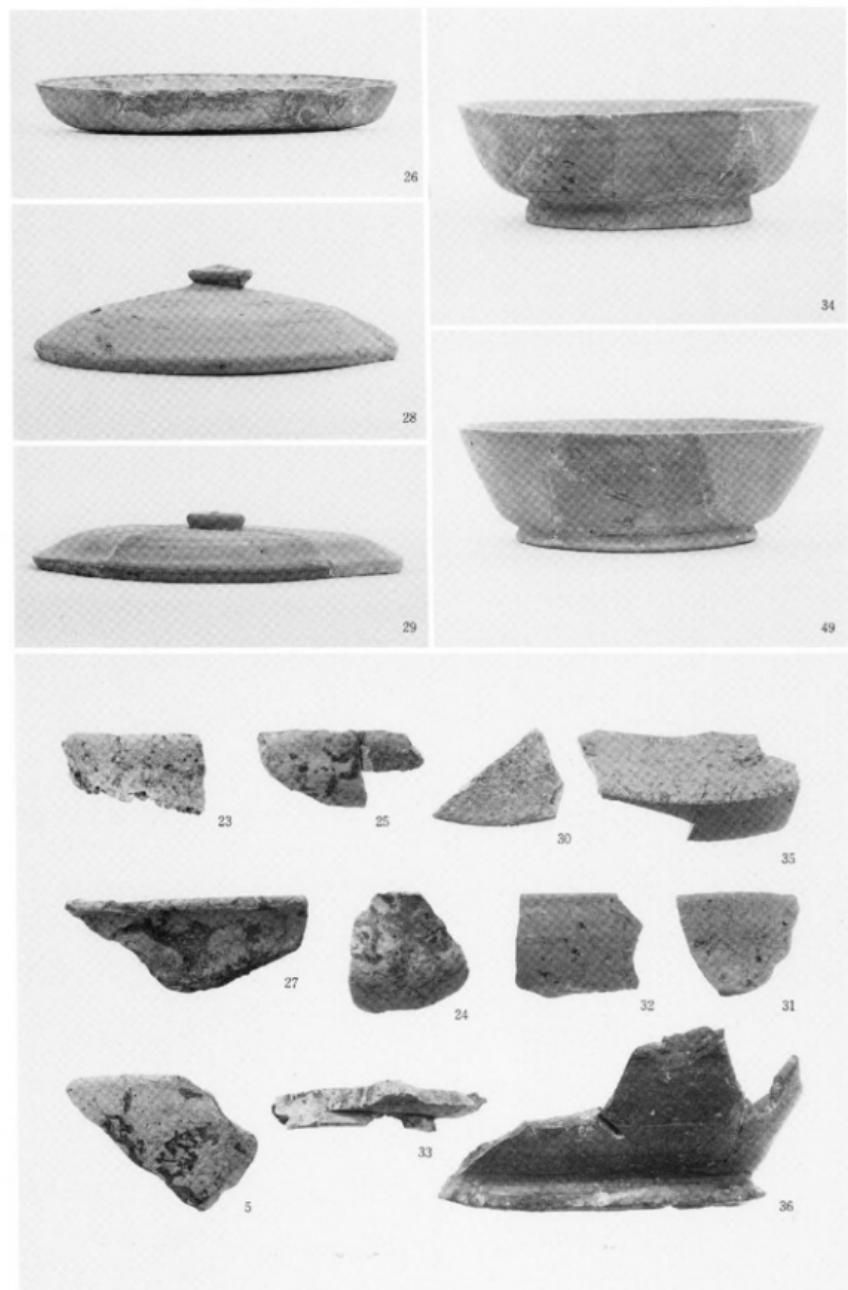
P 1 土器出土状况



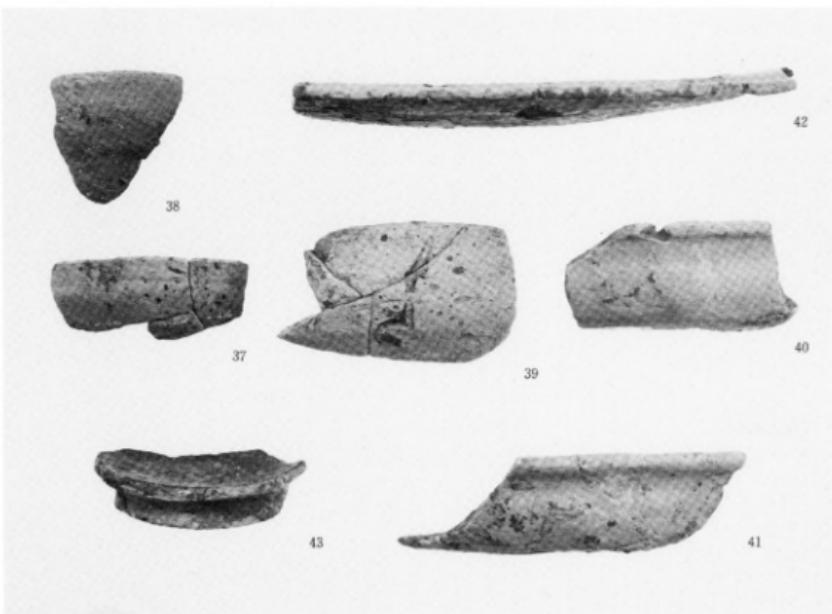
P 3 土器出土状况



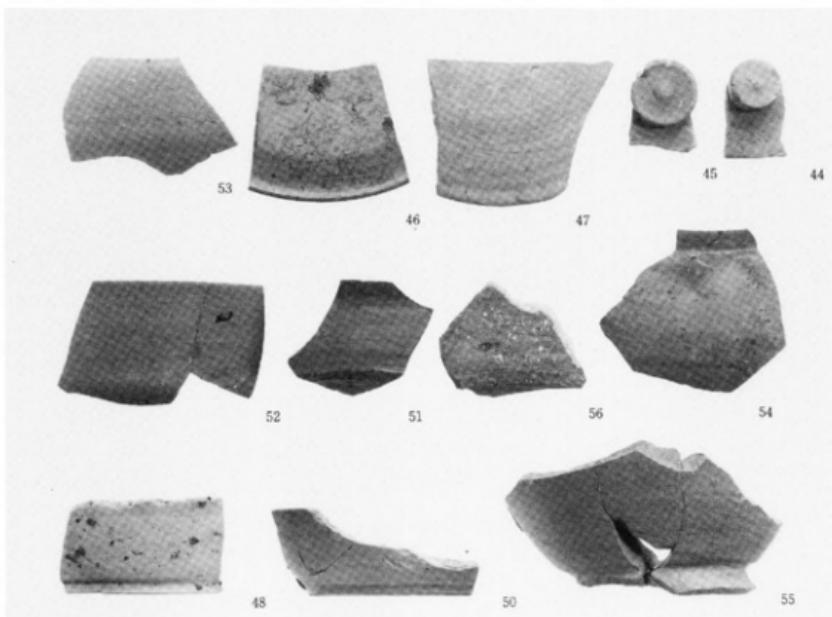
掘立柱建物 1 (1)、掘立柱建物 2 (2・3)、溝 7 (4)、溝 8 (6)、落込み 1 (7~22)



溝7(5)、土器出土ピット1(26・28・29・34)、土器出土ピット2(31)、土器出土ピット3(36)、
土器出土ピット4(32)、土器出土ピット5(25・30)、土器出土ピット6(24・27)、土器出土ピット7(35)、
土器出土ピット8(23)、落込み2(33)、包含層(49)



包含層(37~43)



包含層(44~48・50~56)

河内長野市埋蔵文化財調査報告書IV

1990年3月

発行 河内長野市教育委員会

印刷 株式会社 中島弘文堂印刷所

